

オーバードーズ（OD）への対応



参議院議員・薬剤師 本田 顕子

春めいた陽気の中を舞う桜花の彩りが新たなスタートをお祝いしているように映る季節を迎えました。

私が平日の大半を過ごす議員会館や国会議事堂周辺を入社・入職、人事異動などに伴う挨拶をされる方々が行き来する姿や、3月28日に可決成立しました令和6年度予算の関連資料が各府省から届くことを通じて、新年度の始まりを感じることができます。

新年度は新たな目標や計画に取り組むモチベーションを高め易いと言われますが、その反面、生活環境や職場環境の変化が心身に影響を与えることがありますので、各自一人ひとりの注意と周囲への配慮が必要な時期でもあります。

日常の苦勞・苦痛、対人関係のトラブル、孤独などの個人を取り巻く困難や不安が薬物乱用の要因の一つと言われている中、救急搬送事例や中毒情報センターへの相談事例の調査から、若年層によるOTC医薬品の過剰摂取（オーバードーズ；OD）への対応が急務であることが分かります。

麻薬・覚醒剤などと比べて、若年世代にとって手が届きやすいOTC医薬品のOD対策のため、厚生労働省では薬機法改正を念頭にOTC医薬品の適正な販売方法の検討を進めています。

他方、ODを根本的に防ぐには、ODの危険性と適正使用の重要性の理解を広く促すことが大切であり、厚生労働省と文部科学省とが連携して啓発・教育を推し進める役割を担うべきと考えています。

そのような観点において、厚生労働省が令和5年補正予算として、学校薬剤師等の協力を得て啓発・相談対応を充実させるために1,600万円を計上したことの意義は大きく、文部科学省の小中高生向けの健康教育関連予算との連携可能性について確認作業を続けます。

薬の正しい使い方や薬に関する相談先があること等を未来ある青少年に伝えるため、両省を知る立場としてOD防止の橋渡し役を務めてまいります。